

「国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会 水遺産賞」 を受賞

～石狩川流域の治水・利水施設～

このたび、国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会（IAHR-APD）が恒久的かつ国際的に重要と認められる水施設に対して授与する「国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会 水遺産賞※」を、石狩川流域の治水・利水施設が受賞しました（受賞者：北海道開発局、北海道）。

IAHR-APDの清水康行実行委員長（北海道大学教授）から倉内北海道開発局長に表彰状が手渡され、本日開催されたIAHR-APDの開会式（オンライン開催）において授与の様子が紹介されました。

※2016年に創立。開催国において重要と認められる水施設であり、現在も共用されているアジア特有の水技術を活用した水施設をIAHR-APDが選定

記

1. 受賞対象について

石狩川流域の治水・利水施設（受賞者：北海道開発局、北海道）

【受賞理由】

近代に整備されたこの施設によって、寒冷地の泥炭原野は水田地帯へと変革した。主要な経済地帯の形成に寄与し、現在も適切な管理によって地域の発展に貢献している水施設として選定。

2. 第22回 国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会について

日時：令和2年9月15日（火）～16日（水）

※オンライン開催

（公式HP：<https://iahr-apd2020.eng.hokudai.ac.jp/>）

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 河川計画課 河川企画官 吉村 俊彦（内線 5292）

流域治水専門官 阿河 一穂（内線 5297）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



※水遺産賞やIAHR-APDについては、寒地土木研究所内 大串（011-841-1639）へお問い合わせ下さい

【別紙】

○石狩川について

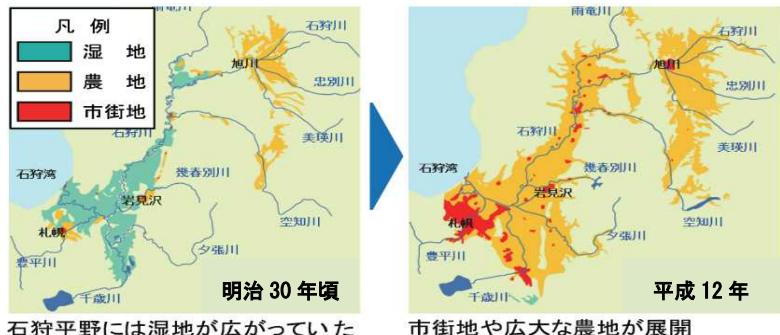
北海道の開拓は1869年の札幌への開拓使設置を契機に進められましたが、北海道の発展において、石狩川は重要な役割を担ってきました。

開拓にあたっては、道路や鉄道が整備されていない中、石狩川は物資や農作物を運ぶ交通路としての役割を担いました。さらに、石狩川では、川の水を安全に流下させるとともに、地下水水位を下げて泥炭湿地を排水する蛇行部のショートカット（捷水路や新水路）が実施されてきました。また、洪水への安全度を高める築堤・護岸や遊水地なども進められました。

これらの取り組みにより、石狩川流域では、洪水への安全度が向上するとともに、湿地の排水等により耕作可能地が増え、北海道全体の発展にも繋がりました。



生振捷水路



石狩平野には湿地が広がっていた

市街地や広大な農地が展開

石狩川流域の土地利用の変化

○受賞の様子

